

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1096 2011年7月号

～高校生を対象にした森林環境教育～

高校生現場見学

【詳細は4頁】



治山工事の現場



プレカット製材所において



2011・国際森林年

森林整備に関する協定を締結

『三好市東祖谷榎尾地域』

〈徳島森林管理署〉



七月二日、徳島森林管理署と独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター・徳島水源林整備事務所は、「三好市東祖谷榎尾地域の森林整備推進に関する協定」を締結しました。

この協定は、三好市東祖谷榎尾地域に所在する国有



徳島署三谷署長と水源林整備事務所川村所長

林三二九・八六haと、隣接する徳島水源林整備事務所契約地一六四・九〇haを共同施業団地として設定し、今後、両者が連携して低コストで効率的な作業路網等の整備や森林整備を行うものです。

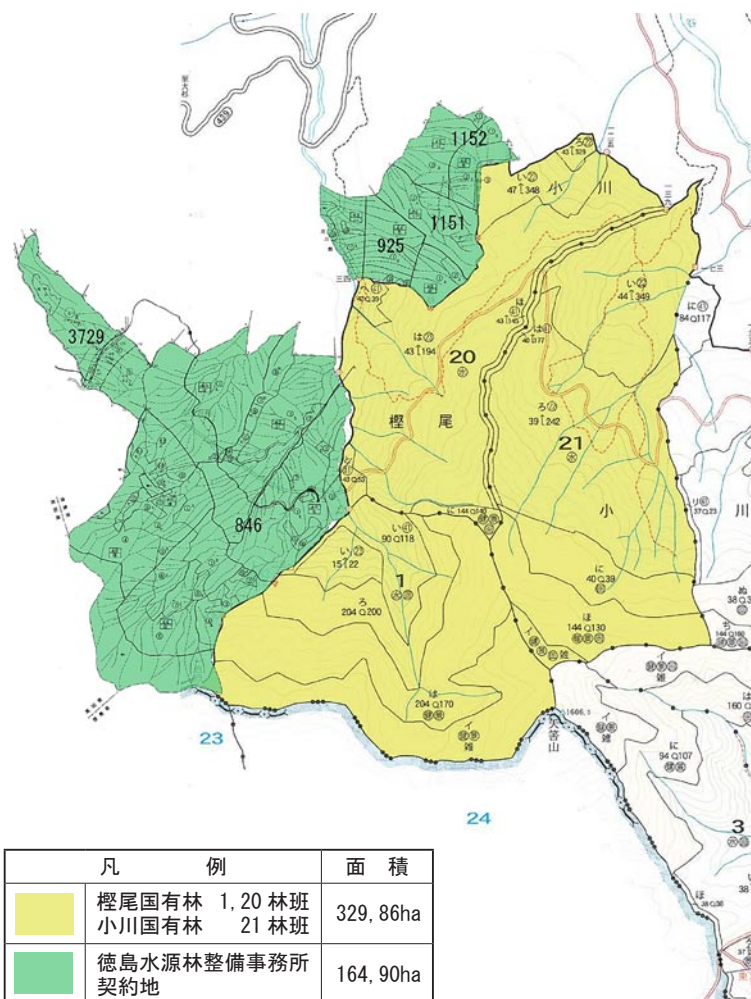
徳島森林管理署では、昨年、徳島水源林整備事務所の契約地と隣接する国有林で作業道を作設して保育間伐（活用型）を実施しましたが、徳島水源林整備事務所が契約地の森林整備を行うためには、この作業道を改修、延長した方が効率的であるとの判断の下、両者で現地調査を行うなど検討を積み重ねて、協定締結に

至ったものです。協定の締結は、徳島森林管理署で行われ、三谷署長と川村所長が協定書に署名・押印し、協定書を取り交わしました。

なつて効率的に路網整備や間伐等の森林整備に取り組むため、共同施業団地の設定を推進することとされており、今回の協定締結はこれらの方向に沿うものです。

なりませんが、森林・林業の再生に向け、今後とも水源林整備事務所をはじめ、民有林関係者との連携を一層進めていきたいと考えています。

三好市東祖谷榎尾地域の森林整備に関する協定位置図



『まんのう町・三好市・東みよし町地域』

〈香川森林管理事務所〉

六月一四日、独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター徳島水源林整備事務所と、「まんのう町・三好市・東みよし町地域の森林整備推進に関する協定書」を締結しました。

この協定は、香川県東かがわ市と徳島県阿波市における「東かがわ市・阿波市地域の森林整備推進に関する協定」に続いて当事務所で三件目となります。

今回は、隣接する香川県まんのう町内の国有林と徳島県三好市、東みよし町内の水源林造成事業地において、共同施業団地を設定し、間伐の積極的な実施による長伐期施業の推進、作業路網の整備等に、両者が一体となって取り組ん

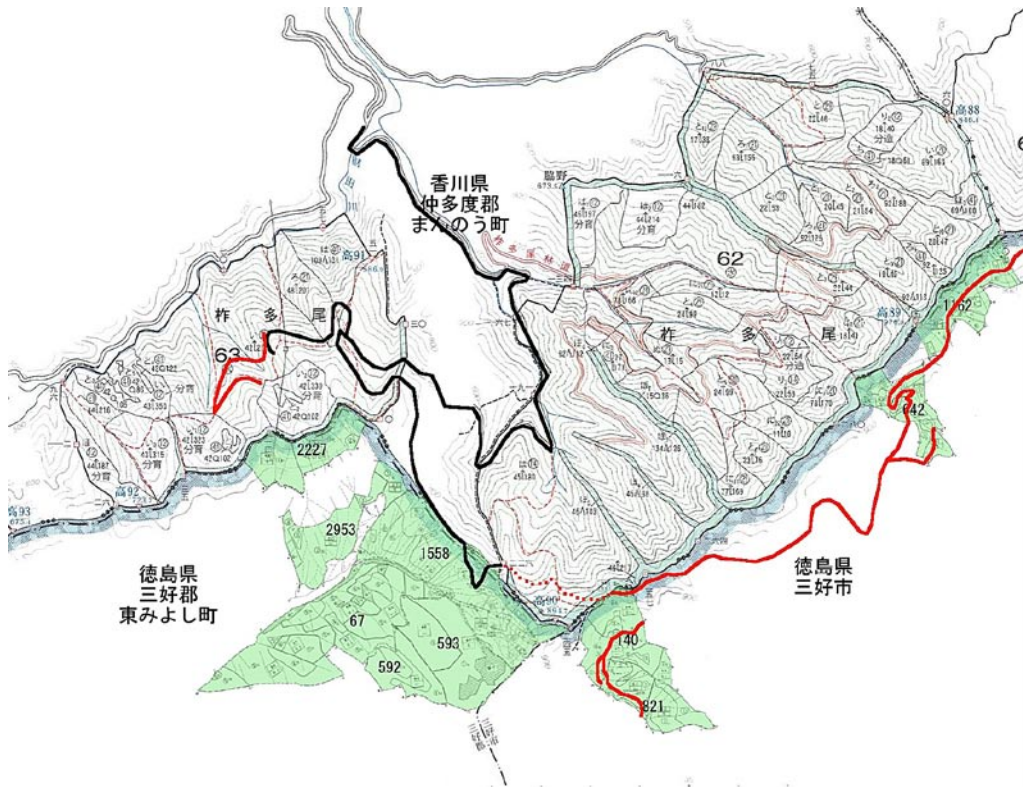
でいくことを盛り込んでいます。

今回の協定面積については、それぞれ三五五ha（柞多尾国有林）、一〇七ha（水源林造成事業地）の合計四六一haです。

なお、これまでの三件の協定面積を合わせると、それぞれ六七七ha（国有林）、二五八ha（水源林造成事業地）の合計九三五haとなります。

今後においても、相互の森林整備の円滑化を推進していくため、他の隣接箇所についても協定締結に向け取り組んでいくこととしていきます。

まんのう町・三好市・東みよし町地域の森林整備推進に関する協定位置図



凡 例	面積
柞多尾国有林 62, 63 林班	354, 85ha
徳島水源林整備事務所 契約地	106, 79ha



3年生・モデルハウス見学

て講義を
内容につい
理局の業務
四国森林管

て、また、
現状につい
林・林業の
庁案内、森
対象に「入
に二年生を
六月一七日
れており、
位置付けら
ラムとして
のキャリア
森林総合科

四国森林管理局では、高知県立高知農業高等学校森林総合科の全学年を対象に、この森林環境教育に取り組んでいきます。

高校生現場見学
高校生を対象にした
森林環境教育を実施
〈総務課・治山課・指導普及課〉

四国森林管理局の業務内容について講義を

二年生の実習箇所は、

三年生は、木材流通をテーマとして、嶺北森林管理署管内の高知県土佐町、本山町で実習を行いました。

行いました。これに引き続き、六月二二日、二四日の二日間に二年生二一名と三年生二〇名を対象に現場見学を実施しました。

高知県香美市物部町の国有林で高知中部森林管理署が実施している治山事業の溪間工等の施工箇所を見学しました。

今回の学習の中で、生徒達は、木材流通では、間伐された森林や、れいほくスケルトンモデルハウスを見学し「間伐の重要性及び木造建築の素晴らしさ」を印象深くしたようです。

治山現場では、山腹崩壊の現況を見て、急峻な地形、もろい地盤を肌で感じ、治山事業の意義・必要性を痛感したようでした。

今後については、三年生は、秋に高知県高岡郡中土佐町の林道新設工事の見学を予定しています。また、一年生も、秋に高知県馬路村の千本山保



2年生・業務内容の講義

護林の見学を予定しています。

各地のたより



松野西小学校森林教室

〈ふれあいセンター〉

第二回

〈空飛ぶ種子に歓声〉



お母さんと一緒になって

六月八日、松野町立松野西小学校の四年生二一名を対象に、一二名の保護者も参加して森林教室を行いました。第二回目となる今回は、種子の特徴や植物が様々な工夫を

して種子を散布していることを学習し、自然環境への興味・関心を育もうとするものです。

最初にスライドで、植物は子孫を残すため「風を利用する」、「動物を利用する」、「水を利用する」、「自分の力ではじき飛ばす、転がる」など、様々な工夫を凝らしていることを学習しました。特に職員手作りの風洞装置を利用したイロハモミジの

種子の空中浮遊には、児童だけでなく保護者からも大歓声が上がっていました。

その後、保護者も一緒になってアルソミトラ、ニワウルシ、マツなどの種子の模型を作り飛ぶ様子を確認しました。最後は

体育館に集まり、ラワン種子の模型の飛ばしみんなで競い合いました。大歓声の中、最も高く飛ばした児童と保護者代表の対決は、大差で児童に軍配が上がりました。

今回の森林教室には、保護者の方も参加され、今後は、親子で森林・林業について関心を持つてもらいたい機会になったことだと思えます。

第二回

〈手作りの木のクラフト〉

六月二二日、四年生を対象に第三回目の森林教室を行いました。

今回は木のクラフトを作ります。

まず、木材の特徴である木材は軽くて丈夫なことや加工しやすいこと、きちんと手入れをすれば千年以上の耐久性のある建物がで

きるなどについて説明を行いました。

続いて、児童がヤマザクラの枝を使ってクラフトづくりに挑戦しました。

最初は慣れないノコギリでの作業に苦労していた児童も、ひとつ作品ができあがると、家族にもプレゼントしたいと取り組み、ひとりでいくつもの作品を作っていました。

また、木目や樹皮をうまく使って作品をつくる児童もおり、手軽に自分のオリジナル作品ができることで夢中で取り組み、

当初の予定より一時限延長するほどの熱の入れようでした。

木の持つぬくもりと、素材としての木材の良さについて十分に感じてもらえたものと思います。

今回は、地元あいテレビの取材もあり、夕方のニュースで取り上げられました。

文化財指定候補地の

測量を行う

〈オオヤマレンゲの群生地〉

〈徳島森林管理署〉

六月二九日、三好市から文化財指定の同意申請があった三嶺国有林で、オオヤマレンゲの群生地の区域画定と測量を行いました。

オオヤマレンゲは、徳島県では絶滅危惧Ⅱ種に指定されている稀少なモクレン科の落葉低木で、その清楚



ノコギリに悪戦苦闘

平成二三年一月には三好市から文化財指定の同意申請があり、この区域の画定と面積計算に必要な測量を行ったものです。当日は、三好市文化財課三名、剣山クラブ四名、当署から六名が参加しまし



「天女の花」オオヤマレンゲ

な花は「天女の花」と呼ばれています。また、この群生地は、平成一八年にNPO 剣山クラブが発見しましたが、シカの食害が激しいため、平成二一年から当署とボランティアが協力して樹木ガードの設置を行ってきました。



測量作業中

たが、この群生地は剣山と三嶺を結ぶ稜線にあるため、奥祖谷二重かずら橋から約三時間をかけて測量器具や資材を運び上げ、作業を行いました。この結果、文化財指定候補地の区域が画定され、面積についても算出することができました。また、樹木ガードの効果により、昨年同様、健全なオオヤマレンゲの開花を確認することができました。

当署としては、国民共通の財産である国有林の適切な管理や生物多様性の確保の観点から、地元自治体やNPOなどからの要望には積極的に応えていきたいと考えています。

六月二五日、高松市屋島国有林にある「遊々の森」ドキドキわくわくコースにおいて、屋島東小学校三、四年生の児童四名を対象とした森林教室を実施しました。

〈香川森林管理事務所〉

「遊々の森」で
森林教室



ペットボトルの実験

今回は、三年生には、下草刈り、遊具遊び及び樹木観察を、四年生には下草刈り、遊具遊び及びペットボトル実験を学習・体験してもらいました。

三年生の樹木観察では、遊々の森に生育しているヒノキ、アラカシ、ヒサカシなどを見て、①低木か、高木か、②針葉樹か、広葉樹か、③常緑樹か、落葉樹かのどちらに分類されるのかについて学習しました。児童たちは、「針葉樹ってこれ?」、「これは落葉樹や!」と、友達同士話し合いながら、それぞれの違いを学びました。

の土が余り水を通さないのに対して、遊々の森の土は水をゆっくりと通すのを目の当たりにして、「運動場の土は全然水を通さん」、「なんで?」と興味津々でした。

また、先輩たちが植えたクヌギ林の下草刈りでは、藪に入ったり鎌を使うのが初体験の児童もいて、最初はおそろおそろ行っていました。最後にはきれいに下草を刈ることができました。

四年生のペットボトル実験では、遊々の森の土と運動場の土の水の浸透具合の違いを比較しました。児童たちは、運動場の土が余り水を通さないのに対して、遊々の森の土は水をゆっくりと通すのを目の当たりにして、「運動場の土は全然水を通さん」、「なんで?」と興味津々でした。

また、先輩たちが植えたクヌギ林の下草刈りでは、藪に入ったり鎌を使うのが初体験の児童もいて、最初はおそろおそろ行っていました。最後にはきれいに下草を刈ることができました。

最後に、遊々の森に設置されたブランコやハンモックなどの遊具で遊びました。小学生らしく元気いっぱいでした。

今回の三、四年生は森林教室への参加が初めてで、この学習・体験が森林や環境について考えるきっかけになってくれればと考えています。